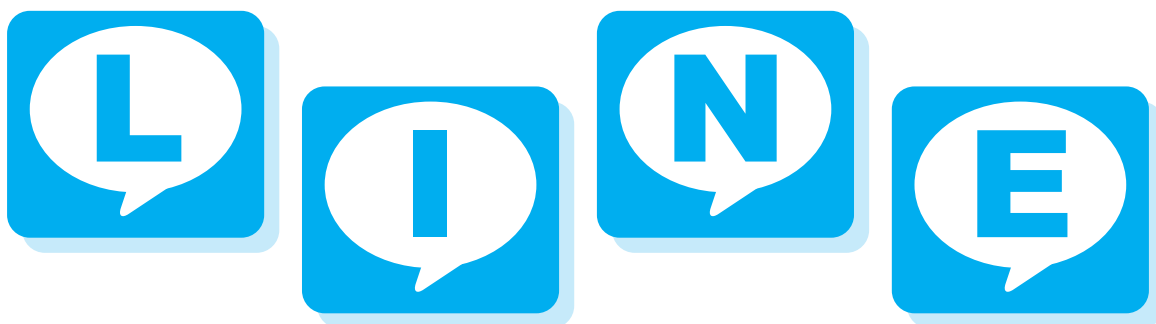


2021年10月スタート

しんとつかわ町の 暮らしに役立つ情報を



でお届けします!!

2021年10月から、スマートフォンなどのアプリ「LINE」で町の情報をお知らせします。

町のアカウントを友だち追加することで、町の情報を見ることができます。

9月15日からテストを開始します。ぜひこの機会に友だち追加してご活用ください。

LINEで配信する情報

配信する情報は、バージョンアップしていくマイ

このアイコンが目印です!

ごみの
分別方法



イベント
情報

災害情報



etc...



登録
方法

●LINEの「友だち追加」から「ID検索」
@shintotsukawa1で検索し登録。

●右記のQRコードをスマートフォンなどで読み取って登録。

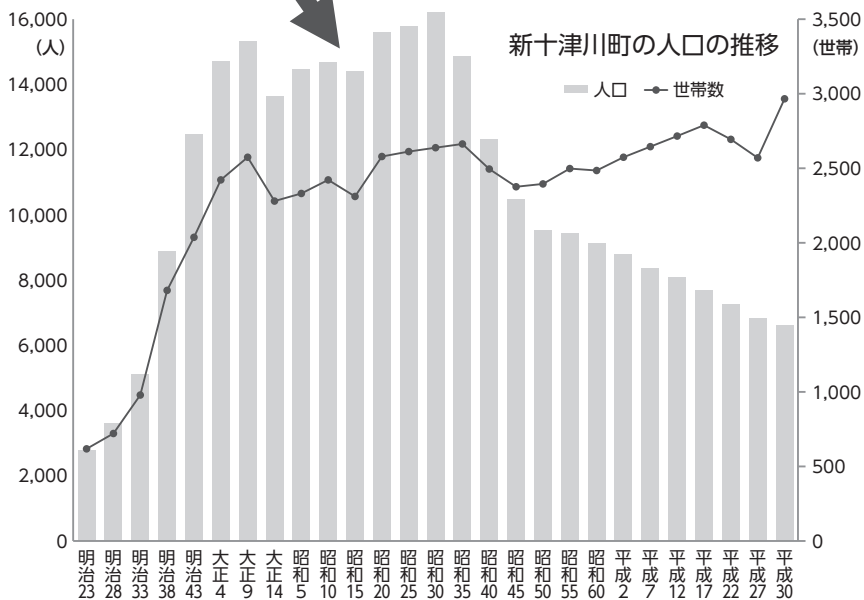


新十津川町開拓記念館 展 小品紹介

開拓記念館にはたくさんのお史料があります。グラフや地図などの資料もあります。今回はグラフ「新十津川町の人口の推移」から何が分かるかについてお話しします。

世帯数の変化

人口と世帯数は昭和45年まで同じ増減（比例）をしています。その以降の世帯数は増加を、人口は減少をする反比例を表しています。ここで、公民（中学校）の教科書の記述を参考にすると、「昭和40年代以降）親と未婚の子ども、あるいは夫婦だけからなる核



家族世帯が現代の家族の型の特徴になっていきます。一方で、高齢者だけで暮らす世帯や1人暮らしの高齢者も増えています。」

新十津川町でも昭和45年を境にして棒と折線が連動しなくなり、核家族化が進行していることが分かります。

人口のピーク①

人口のピークは昭和30年、新十津

川村の時です。国や道の人口のピークと比較してみましょう。

新十津川町 昭和30年(1955年)
1万6199人

北海道 平成8年(1996年)
569万3495人

日本国 平成20年(2008年)
1億2808万人

国の人口がピークを迎える約50年前、道の人口がピークを迎える約40年前に新十津川町の人口がピークを迎えました。このことを考える際に、高度経済成長がキーワードになります。

公民の教科書には「高度経済成長は昭和30年から始まった」とあります。新十津川町の人口のピークは、高度経済成長の開始年と一緒に、農業から工業へ、農村から都会への人の流れがあったことが分かります。

人口のピーク②

棒グラフをよく見ると、人口のピークが大正時代にもあったのが分かります。大正9年に1万5305人ですが、5年後には1万3643人と1662人も減少しています。何があったのでしょうか？

『町百年史』(平成2年刊)

「畑も奥地帯の開拓が進むに従って、その面積は次第に増加するが、大正8・9年ごろを頂点として下降

線をたどり始めます。大正4年から9年にかけては著しい増反が見られますが、第1次世界大戦(大正3~7年)の影響によって一時は豆成金の時代が招来します」。

『社会学講義資料』(昭和26年刊)

大正3年以後は、もはやこの村の人口は飽和状態に達したものとごく(中略)第1次大戦による景気の上昇は大正8年以降の人口減少に作用したものごとく(中略)奈良県十津川郷の人々によって拓かれたこの村は他府県人の流入によって膨張してきたのである。

2つの冊子から次の2つが分かります。

ア 第1次世界大戦の好景気(豆成金)の影響が新十津川にも波及し、人口が増大したが、大戦後には人口減になる。

イ 人口増は、十津川からではなく、他府県からの流入によるものである。

補足

グラフは、大正9年から平成27年までは国勢調査から、それ以外は役場統計資料から作成しています。平成27年と平成30年を比較し、世帯数が大きく増加しているのは、住民基本台帳と国勢調査の違いによるものです。